

法医学 本試 (2017.03.03 実施)

- I 解剖の種類を3つに大別し、さらに法医学に関係する解剖について詳しく記せ。また、それぞれの解剖に関係する法律も記せ。
- II 挫創と刺創の創の性状の違いを記せ。
- III 溺死体に見られる生活反応を列挙せよ。
- IV 死斑ができる原因と経時的变化を記せ。
- V 死亡診断書と死体検案書の違いを記せ。
- VI 正しいものには○を、誤っているものには×を記せ。
- () 全身に及ぶ死後硬直が短時間で起こることはない。
 - () 近射における射出口は射入口より大きい。
 - () 一酸化炭素中毒における死斑は鮮紅色調である。
 - () 咽頭壁や喉頭蓋の発赤、腫脹は死後の火災でも見られる。
 - () 戦闘家姿勢(ボクサー姿勢)は焼死の生活反応である。
 - () 乗っていた船が転覆し溺死した場合は、死因は不慮の事故の交通事故である。
 - () 飲食店で食中毒となり、3日間入院した患者が死亡した場合は所轄警察署に届け出る。
 - () 食中毒による死亡の死因は内因性の病死である。
 - () カーバメイト中毒では血中コリンエステラーゼ値は低下しない。
 - () 定型的縊死では眼結膜に多数の溢血点が見られる。
 - () 腐敗は早期死体現象である。
 - () 白骨化は地上より土中のほうが早く進む。
 - () 成人の血液で ABO 式血液型判定を行う際は、おもて試験とうら試験のいずれかのみで判定できる。
 - () 血痕から DNA 多型を調べるのに最も適したものは STR である。
 - () 毛髪毛幹部から DNA 多型を調べるのに最も適したものは VNTR である。